



War Cry

3月号

福音版
2022
March
No.2831

二〇二二年 三月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

GOOD NEWS
とぎのこえ春の募金のお願いに
参りました！

山谷 真

「春の募金のお願いに参りました！」と、声も元気に一軒一軒お訪ねするのが救世軍のメンバーにとつてのこの季節の大きな務めです。募金初日には寒さが残っていても中盤を過ぎるとふと空気が変わる瞬間があります。冬の空気が消えて春の空気になる瞬間です。

しかし、コロナ禍のために救世軍の募金は訪問から郵送でのお願いに切り替えさせていただくことになり、この状況がすでに三年目となっています。「募金のお願いに参りました！」とお訪ねして、皆様のお顔を拝見しお声を聞けることが、本当にかげがえのない、尊いことと感じさせられます。

コロナ禍の影響で救世軍の業務もほとんどメールのやりとりだけで済ませるようになりました。すると何か物足りなさを感じます。しかし、リアルに会うことが感染機会になってしまったりと想像すると気が引けます。自分が感染するだけならよいですが、もし対面した相手を感染させてしまったら、という可能性を恐れるのです。

そんな時、人類はさまざまな恐れで心を縛られていることを思われます。コ

ロナ禍では特に恐れを感じます。しかし、それに対して神様は「恐れるな！」とおっしゃってくださいということもまた事実です。

「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。」(イザヤ書41章10節)

ところが、もし「恐れるな」という呼びかけが聖書に書いてあるというだけだったらどうでしょう？ それはしよせん紙に書いた文字に過ぎない、と言う人がいるかもしれません。だからこそ「神が人となる」という奇跡が私たちの世界に起きる必要があったのかも知れません。

新約聖書は、神がベツレヘムの馬小屋の飼葉桶の藁の上に赤ん坊となって降り立った、それがイエスだと伝えていきます。この驚くべき奇跡をイエスの最愛の弟子であったヨハネは福音書にこう記しました。

「言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた。わたしは父の栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であつて、

恵みと真理とに満ちていた。」(ヨハネによる福音書1章14節)

神は紙の中だけの神ではありません。知られざる匿名の神でもありません。顔と声と身体を持つリアルな存在となつてくださった神です。リアルな存在であれば当然、傷つき病み死ぬことがあるでしょう。人となられた神は、人類の身代わりに十字架につけられて死に、三日目に復活することによって、私たちに罪の赦しと永遠の命を与えてくださいました。そのことのゆえに、イエスを信じる者は、「恐れ」から解放されることのできるのです。

イエス・キリストの復活を祝う今年のイースターは四月十七日(日)です。キリストは復活されました。本当に復活されました。

ですから、私は自分も復活し、あの人もこの人も復活すると信じています。その復活の日がやがて来たならば、私たちは顔と顔を合せてリアルに対面することができるでしょう。その時、ひとりでも多くの人と、「恐れ」から解放された者として、再会の喜びを共にしたいと願うものです。

(救世軍士官(伝道者))



救世軍サポート会事務局
小林 誠 さん（救世軍京橋小隊所属）

すべての人の存在の価値を尊び、キリストが一人ひとりを愛されたことを模範として、救世軍の働きは進められています。その働きへのご支援を広く呼びかけるため、二〇一六年に「救世軍サポート会」が発足しました。その事務局で働く小林さんに、信仰の歩みをお聞きました。

温かな環境で育まれて 信仰の確信を得た青年時代

救世軍士官（伝道者）の両親のもとに五人きょうだいの末っ子として生まれ、小樽で生まれ、両親の転任で帯広に引っ越し、六歳まで北海道にいました。聖書に、「言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた」（ヨハネによる福音書1章14節）とあります。これは、神の独り子イエス様が、人となつてこの世にいられた

ということを表しています。わたしの名前は、この聖書箇所から取られ、「言」と「成る」で「誠」と、父が名付けてくれました。士官の家庭で、経済的に豊かだったとは言えませんが、両親が任命を受けて行く先々の小隊（教会）にあたるでは、いつも信徒の方々が大勢集つておられ、温かな雰囲気でした。相談事で

来られる方も多く、両親はいつもその方々に食べ物をお渡ししていました。家族への頂き物もあげてしまうので、幼いわたしは母に文句を言ったこともありましたが、すると、「うちはいっただけでみんなが食事ができる。でも相談に来られる方たちは食べるのにも困つておられるのだから」と、母に諭されたのを覚えています。群馬県の高崎にいた小学校四年の時、気管支の病気で急に呼吸ができなくなり、重篤な状態になったことがありました。その時、ぐつたりとしたわたしを、父と一緒に病院へ運んでくれたのは、小隊の前で足袋を売っていた行商のおじさんで

した。それで命が助かりました。そのように、どこに行っても周囲の方々の親切に支えられ、また、家族きょうだいが仲良く成長してきました。

そのような環境で育ち、イエス様、神様の存在は自然と信じていましたが、信仰を自分自身のものとして確信を得たのは、仙台にいた高校生の時のことでした。仙台小隊に来ておられた大学生の本間さんという方に「誠くんは神様を信じているのか？」と問いかけられました。「ご両親が信じているからと言って、自分自身とは別のことなんだよ」と。その時、「信じている」と思っていたけど、本当に「？」と考えました。本間さんは聖書を聞いて、「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます」（ヨハネの手紙一1章9節）の御言葉を指し、「この御言葉から感じるところがある？」と言われました。「言います、告白する」ということだと思えます」と答える

と、じゃあ一緒に祈ろう、と。その時、罪の赦しということに強く感動し、泣きじゃくって祈ったことを覚えていいます。神様が罪を赦してくださること、わたしが気づいていることも、知らずに犯してしまった罪も、すべて赦してくださいとうことに感動したのです。そういう祈りは後にも先にもありませんでした。あいまいだった信仰がはっきりとした経験でした。

社会人としての歩み 御言葉に支えられながら

大学卒業を前に、東京での就職先を探していた時、「神田運輸倉庫」（現在は「日本ロジステック」）の求人広告を見ました。「土日休み」という条件を見て、これなら日曜日に小隊へ行けると思い、入社試験を受けました。採用され、最初に配属されたのは厚木営業所でした。神奈川県愛川町に住み、日曜日には二時間ほどかけて東京の京橋小隊に通っていました。また、住まいの近くにあった日本基督教団の愛川伝道所で毎週水曜日におこなわれていた聖書の学びと祈禱会に、欠かさず出席していました。米田真牧師が導いてくださった聖書の学びは、聖書の登場人物が目の前にいるような、本当に生き生きとしたものでした。御言葉が生きているということを実感し、信仰が養われた日々でした。米田先生が救世軍の実践的な信仰を理解し応援してくださったことにも、とても励まされました。厚木営業所で十二年間の現場経験の後、本社異動になり、総務部、経理部、社長室、内部監査室、国際規格であるISO構築の責任者として充実した日々でした。その後、監査役に就任し、会社が導入したコンプライアンス体制のチーフオフィサーも兼任し、内部相談窓口になりました。コンプライアンス体制の構築のためには、普段取引のない商社の担当窓口の方からも



信徒の方が描いた
愛川伝道所の建物



南相馬市へ支援物資を運んだ、日本ロジステックのトラック

親切な助言を受け、今も感謝の思いでいっぱいです。さまざまな議論の場でも、恐れず信じたところを言葉にし、話し合うことができました。信頼し働きを託してくださった方々に感謝しています。社長は救世軍にも理解があり、そのような経営者に出会えたことは本当にありがたいことでした。また、忘れられないのは、二〇一一年、東日本大震災の発生時に、海外から救世軍に寄贈された支援物資（水・日用品）を自社の倉庫で保管し、南相馬や気仙沼などの被災地域へ運搬したことです。コンテナ十数台分の物資が届き、荷下ろしを本社の課長たち（当時）が担ってくれました。被災地への運搬は、放射能の影響

響が心配される地域へ若いドライバーは行かせられないと、運輸部門のベテラン社員、ドライバーが自ら申し出て引き受けてくださいました。この経験を通して、物流は生活のライフラインであることを実感しました。この会社で四十三年間、大きな事故もなく勤め上げられたことは会長や社長、また同僚の皆さんのおかげと本当に感謝しています。神様の御心で導かれた会社だったのだと感じています。

会社員の時も今も、支えられる聖書の言葉はたくさんありますが、先に挙げたヨハネの手紙一の「神は真実で正しい方です」という言葉はいつも心にあります。また、ルカによる福音書にある、復活なさったイエス様がエマオへの途上で二人の弟子に姿を現し、一緒に歩いて行かれたという記事も大好きです。神様は真実な方だということ、そしてその方がいつも一緒にいてくださるということに、安心感を得、励まされています。

賛美の音楽を奏でながら 救世軍での働きに導かれて

わたしの信仰の歩みには、賛美の音楽が欠かせない大切なものです。オルガンは高校生のころに練習を始め、今も小隊の集会で弾いています。ラッパは小学四年生からです。当時いた高崎小隊ではブラスバンドが盛んで、年上のお兄さんたちに混ざってホルンを吹き、野戦（路傍伝道）について行きました。一九八五年にジャパン・スタッフ・バンドのメンバーになり、現在まで、バンドの演奏を通して信仰の証しをすることができ、感謝しています。会社員時代も、仕事に支障をきたすこともなく参加し続けることができ、今思うと不思議です。二〇一一年にはイン

ターナショナル・スタッフ・バンドの百二十周年記念集會に参加するためにイギリスへ行き、各地の小隊や教會、ロイヤル・アルバート・ホール、バックingham宮殿で演奏するという特別な機会を与えられ、大きな恵みを受けました。特にバックingham宮殿までのパレードで、ザ・マルという広い通りを演奏しながら進んで行くと、大勢の観衆の方々がバンドの後について歩いて来られました。その時、救世軍のバンドは人々を天国へ導くためのものなのだ、と強くインスピレーションを受けました。

来てきました。わたしの兄は昨年体調を崩し、要介護四の認定を受け、言葉が出にくくなっているのですが、その兄が、昨年十二月のある日、わたしが社会鍋から帰ってくると、「寒かったらう、ご苦労だったね」と言ってくれたのです。兄が言葉で思いを伝えてくれたことが奇跡のようでしたし、社会鍋の働きを覚えて応援してくれていることに大きな喜びを感じました。昨年もお晦日まで社会鍋に立つことができました。これからも神様が許してくださる間、立ち続けたいと思っています。

所属している京橋小隊では現在、曹長（信徒リーダー）という役割をいただいています。京橋小隊は、人を恐れず、神を畏れることを教えてくれた場所です。お互いを思い合う、生涯の友がいる場所であり、小隊に集う方々は、共に天国を目指して歩む仲間です。これからも神様に賛美を献げ、神様の与えてくださる役割に心をこめて取り組みながら歩んでいきたいと思っています。

救世軍サポート会について

救世軍サポート会では会員を募集しております。年会費は個人会員 一口 3,000 円、団体・法人会員 一口 10,000 円です。

○詳しくは救世軍ホームページをご覧ください。
<https://www.salvationarmy.or.jp/donation>

○お問い合わせ：救世軍本営「救世軍サポート会事務局」まで 電話 03-3237-0881（代表）



所属する京橋小隊で



世界をみつめて

〈英国〉感染症対策に尽力した関係者への叙勲

エリザベス女王は新年の叙勲者名簿を昨年のおおみそかの大晦日に発表し、新型コロナウイルスのパンデミックに際して感染症対策に尽力した関係者を表彰しました。コロナ禍にあってイギリスの650カ所の小隊(教会にあたる)を通じて食糧支援をおこなった救世軍に対しては、コミュニケーション部長のディーン・パラント大佐補が救世軍を代表して大英帝国勲章第五位(MBE)を授与されました。

また、救世軍兵士(信徒にあたる)のラッセル・ルック博士は彼が設立したNPO(非営利組織)「グッド・フェイス・パートナーシップ」を通じたコロナ禍における社会的支援が表彰され、大英帝国勲章第四位(OBE)を授与されました。同じく救世軍兵士のフィル・ウォール夫妻は彼らが設立したNPO「ウィー・シー・ホープ」を通じてア



フリカの60万人以上の子どもたちを支援した業績が表彰され、大英帝国勲章第五位(MBE)を授与されました。

〈米国〉

●プロフットボール選手からの寄付

NFL(ナショナル・フットボール・リーグ)の「デンバー・ブロンコス」に所属するマクテルビン・アジーム選手は、救世軍の活動をサポートするために試合で履いたシューズをオークションに出品しました。救世軍のロゴをあしらったシューズはアジーム氏のサイン入りです。アジーム氏は幼少時代をテキサス州テクサカナの貧しい家庭で育ち、「救世軍のシェルターでクリスマスを過ごしてプレゼントをもらった思い出が忘れられない。その恩返しをしたい」と語りました。

オークションの収益は救世軍テクサカナ小隊のエンジェルツリー・プロジェクト(子どもたちにクリスマスプレゼントを贈る活動)に役立てられました。

●「ローズ・パレード」に参加 カリフォルニア州バサデナ

では元日にアメリカンフットボールの大学対抗試合「ローズ・ボウル」が開催されます。それに合わせておこなわれる「ローズ・パレード」には1920年以来、救世軍のプラスバンドが毎年参加しています。昨年はコロナ禍で中止となりましたが、第98回となる今年のパレードには、全米各地の救世軍バンドから選抜された楽隊員とタンバリン隊員たちが演奏しながら行進しました。



デンバー・ブロンコスのアジーム選手



ローズ・パレードの様子



救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置き、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では、1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まりました。

毎年春には、「克己週間」がおこなわれます(3、4月)。これは、イエス・キリストの十字架の死を想起する受難節の季節に、困難な状況にある方々に思いを向けおこなわれる募金運動で、海外の救世軍の活動を支援するためのものです。世界各地の救世軍で取り組み、英国の国際本部

を通して、資金困難な地域での様々な救世軍の活動に再配分されます。

世界中が新型コロナウイルス感染症の影響下にあった昨年も、病院や診療所を通しての支援、困窮する方々への食糧支援や衛生用品の配布など、人々に仕える働きが進められました。今年も世界の必要を覚え、どうぞご協力をお願いいたします。

※救世軍の小隊、社会福祉施設、病院は、新型コロナウイルス感染症の感染予防策に最大限努力し、活動を続けています。



救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版 / 毎月 1 日、広報版 / 奇数月 15 日(除く 7 月)
定 価 福音版 / 1 部 40 円、広報版 / 1 部 100 円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号) / 1 部 100 円
振 替 00180 - 5 - 4400
発行兼 救 世 軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。